

# 何度も再生されて、モノに限りない命を与えるデザイン



**ストーリーボード**  
Storyboard  
パネル

コルクシートの切れ端を、壁にかけて写真フレームや小物をつり下げるパネルに再生した。ウエズリー・マッケイン(アメリカ)の作品。



**エッセンシャルシーズニング**  
Essential Seasonings  
ソルト&ペッパー

調味料入れの正体は実験に使う試験官。抜いたら捨てられる運命のシャンパンの栓もリサイクル。ショーン・ダッチマン(アメリカ)の作品。



**チューブバックパック**  
Tube Backpack  
バックパック

古タイヤが、丈夫で収納力あるバックパックに変身。タウンユースにもアウトドアにも合うデザイン。ポーラ・ボンテス(オランダ)の作品。



**ウォーターリングキャン**  
Watering Can  
ジョウロ

ボディはレストランで大量消費されるトマトソースの缶。注ぎ口部分を変形させて、注ぎやすく。アンディ・プリティキン(アメリカ)の作品。



**ボードバッグ**  
Board Bag  
小物入れ

スノーボードのトップに張るシートの余りを利用。スノーボード文化とリサイクル・アートの融合。サラ・ティスデイル(アメリカ)の作品。



**リリーフ・プレート&ボウル**  
Re-Leaf Plates&Bowls  
食器

衛生処理した葉を型にはめて皿とお椀に。手になじみやすい触感が心地よい。スジッチ・カリア&ネイサン・ライツマン(インド)の作品。



**グロサリーバッグ**  
Grocery Bag  
ショッピングバッグ

アメリカの市場によくある、オレンジや玉ねぎの袋を再利用。穴があきにくい頑丈な素材が強い。ポール・ケアスリー(アメリカ)の作品。



**ファイヤーフライ・ナイトライト**  
Firefly Nightlight  
携帯ライト

自動車の使用済み窓ガラスを細かく粉砕して小型の瓶に詰めた携帯ライト。充電式電池を使用。ジェリマイア・ウエルチ(アメリカ)の作品。



**ニューズペーパー・ヴァイン・バスケット**  
Newspaper Vine Basket  
バスケット

新聞紙を細かく裂いてねじった糸を編み込んだ。印刷文字が微妙なパターンを作り出している。フライアン・ドゥーガン(アメリカ)の作品。

できるエコ・デザインの登竜門として、世界的に認められている。「私はいつも、打開しなければならぬ問題の解決策に思いを巡らせています。だから、自分たちのアイデアでよりよい未来が訪れることを、疑ったことがない」

ジョンソンによれば、「記憶のデザイン」は、「素材の記憶」のデザインであるだけでなく、それを使っていた「人間の記憶」のデザインでもあるという。

**不要品になったモノを、違う角度から眺めてみる。**

これまでIDRAで選ばれた「記憶のデザイン」を、すべて保管しているのが、プロダクトデザイナーのアルナス・オシユラバスだ。彼が教授を務めるウエスタン・ワシントン大学に足を運べば、それらを見ることが出来る。「IDRAには、学生との共同プロジェクトで出品したことがあります。まさに目から鱗の体験で、これこそ自分がやるべき仕事だと思った」と、オシユラバスは振り返る。

リトアニア系移民の子供としてニューヨークに生まれたオシユラバスにとって、子供のころのヒーローは、トマス・エジソンだった。洗濯機が壊れば、母が喜ぶ顔が見たくて、自分で直したものである。

発明家を目指しながら、最終的にプロダクトデザイナーになったオシユラバスにとって、「記憶のデザイン」と



**ツイスト**  
Twist  
便利ツール

ポリエステル製のストラップをスパイラル状に。パソコンの背後で錯綜するケーブルがまとめられる。リン・ニコルス(アメリカ)の作品。



**輪舞**  
Ronde  
有田焼

こわれた磁器をリサイクル、現代的なデザインの有田焼に甦らせた。バージン素材と変わらない品質に。中村倫明&村山純子(日本)の作品。



**オウロシュー**  
Ouro Shoe  
靴

古タイヤは「記憶のデザイン」に大人気の素材。タイヤの破碎チップを靴底にリサイクルしたシューズは、リー・ボグダン(アメリカ)の作品。



**パルポット**  
Pulp Pots  
植木鉢

土と葉っぱからできたプラスター。使った後は、そのまま庭に埋めれば、文字通り「土に還る」。マシュー・ウォナメイカー(アメリカ)の作品。



**アーク・ピクチャーフレーム**  
The Arc Picture Frame  
フォトフレーム

バケツの側面を切り取って加工。同じバケツに打ち込まれていたボルトとナットもリサイクルした。ペロニカ・ベイル(アメリカ)の作品。



**リコイル**  
ReCoil  
ナベ敷き

使用済みガスレンジの coils を丁寧に磨き、キッチン第一線に戻す。超シンプルなりサイクル。カイル・コーネリアス(アメリカ)の作品。



**ガーデンバスケット**  
Garden Basket  
バスケット

鉄くずをリサイクルしたストラップを編んだバスケット。野菜入れやマガジンラックに使える。アルナス・オシュラバスの作品。



**チルドレンズガーデンツールズ**  
Children's Garden Tools  
砂場セット

青、赤、白の洗剤容器を、かたちを生かしたまま切り取ってつくった、子供用の砂場セット。マシュー・トレイネン(アメリカ)の作品。



**チューブポーチ**  
Tube Pouch  
小物入れ

右ページ右上のチューブバックパックと同じ作者によるシリーズ。古タイヤをリサイクルしたポーチ。ポーラ・ボンテス(オランダ)の作品。

はそんな子供時代の記憶につながるデザインでもある。

オシユラバス自身の言葉を借りれば、「常にモノの生命の終わりを意識し、アイデアによって、それを再生させるデザイン。何度も再生され、限らない命を与えるデザイン。プロダクトが、けつして死ぬことのないデザイン」ということになる。

IDRAに自ら出品した、メタルバスケットもそのひとつに違いない。「見てくれはいいが、実用には向かないというデザインは、いずれ捨てられる運命にあります。それは記憶のデザインにはなり得ない。いかに長く愛され、使われ続けるか。それこそが、重要なことなのです」

撮影用に広げた作品を手にとり、それらがいかに、記憶のデザインのコンセプトを具現化しているかを、オシユラバスは説明する。

「これらの素材は本来なら不燃ゴミとして葬り去られる運命にあったモノたちです。子供用のガーデンツールは洗剤の容器を切るだけで完成。塩とコシヨウ入れの底のフタはシャンパンの栓で、これはデザイナーがワイナリーで思いついたと聞いています。不要品になったモノを違う角度から眺めてみる。現世のモノがデザイナー的にも優れた来世のモノに生まれ変わるかどうかは、そんなデザイナーのひらめきにかかっているのです」

プロダクトデザインを学ぶ学生たちに「記憶のデザイン」の制作を奨励している彼は、それらの商品化にも力を注いでいる。「記憶のデザイン」は、そのようにして、「人の記憶」のデザインになっていく。